

事業者のご紹介

(事業再開等を果たされた事業者のみなさま)

平成30年3月

福島相双復興官民合同チーム

(公益社団法人福島相双復興推進機構)



<はじめに>

私たち福島相双復興官民合同チームは、これまでに5,000者近い事業者の方々を訪問・支援させて頂いておりますが、そのなかで、復興やまちづくりに熱い想いを持つたくさんの方々のお話をうかがうことができました。

事業再開や開業に当たっては、多くの事業者がさまざまな悩みや苦労を抱えながらも、「相双地域の復興のために」「愛する故郷に活気を取り戻すために」という想いのもと、着実に歩みを進めておられます。

今般、その方々の取組みをほんの一例ではございますが、冊子としてとりまとめましたので、ぜひご一読ください。

この冊子以外にも、奮闘する多くの事業者をホームページやフェイスブックでご紹介しておりますので、こちらも併せてご覧ください。

ホームページ:

<https://www.fsrt.jp/activity>

QRコード



フェイスブック:

<https://www.facebook.com/kanmingoudouteam/?fref=ts>

QRコード



目次

1. (株)朝田木材産業（木材製品製造業）	※浪江町…P1
2. いいたていちごランド（農業）	※飯舘村…P2
3. いいたて村の道の駅 まいでい館（小売業）	※飯舘村…P3
4. (有)泉エンジニアリング（金属製品製造業）	※楢葉町…P4
5. (株)いととんぼ（農産物直売事業、飲食業）	※南相馬市…P5
6. (株)彩葉（介護事業）	※南相馬市…P6
掲載内容は発行当時の情報です。何卒ご了承ください。	
7. ゑびす庵（飲食業）	※飯舘村…P7
8. 大堀相馬焼（食器製造、販売業）	※浪江町…P8
9. 葛尾村3商店（小売業）	※葛尾村…P9
10. (有)カミノ製作所（自動車部品販売業、納豆製造業）	※川俣町…P10
11. 吟せん太鼓いちばん亭（飲食業）	※川俣町…P11
12. 小浜製作所(有)（金属製品製造業）	※南相馬市…P12
13. こんどこそ（飲食業）	※浪江町…P13
14. さくらステーションKINONE（物販、飲食業）	※富岡町…P14
15. さくらモールとみおか3商店（飲食業）	※富岡町…P15

16. THE LANTERN HOUSE（宿泊業）	※南相馬市…P16
17. 杉田屋（日用品販売、飲食業）	※川俣町…P17
18. 蕎麦酒房天山（飲食業）	※川内村…P18
19. 天神岬温泉 しおかぜ荘（宿泊業、生活関連サービス業）	※楢葉町…P19
20. 富岡ホテル(株)（宿泊業）	※富岡町…P20
21. 勿来復興拠点3商店（飲食業、サービス業）	※双葉町…P21
22. 新妻荘食事処いふ（飲食業、宿泊業）	※浪江町…P22
23. 合同会社ニコニコ菅野農園（農産物加工販売事業）	※飯舘村…P23
24. (株)ネモト（小売業）	※楢葉町…P24
25. 馬場医院（医療業）	※広野町…P25
26. (株)ハム工房都路（食品製造業）	※田村市…P26
27. (株)広野薬局（医療保健業）	※広野町…P27
28. 双葉設備工業(株)（電気工事業）	※大熊町…P28
29. (有)ふるさとのおふくろフーズ（農産物加工販売事業）	※葛尾村…P29
30. (株)ヘルシージャパン（サービス業）	※楢葉町…P30
31. まち・なみ・まるしえ（仮設商業共同店舗）	※浪江町…P31
32. (有)マルイ装美（サービス業）	※双葉町…P32

33. mammacio (マンマチャオ) 南相馬小高店 (サービス業)	※南相馬市…P33
34. 都路運送(有) (運送業)	※田村市…P34
35. 都路町商工会 みやこじスイーツゆい (菓子製造、小売業)	※田村市…P35
36. みやこ旅館 (宿泊業、飲食業)	※田村市…P36
37. 若松味噌醤油店 (食品製造業)	※南相馬市…P37

株式会社朝田木材産業（木材製品製材業・浪江町）



代表の朝田 英洋氏



工場事務所



小物商品

- 「朝田木材産業」は大正元年の創業以来、製紙チップや建築資材等を生産する老舗の製材・木材加工業の会社です。現代表者である朝田英洋氏で4代目となり、工場も浪江町の中心市街地に位置しています。
- 震災後、かつての主力商品であったフローリングの原材料である津島産の赤松の仕入れが出来なくなってしまったことから、チップや防風柵といった商品の生産が中心となっています。また、建築資材についてもかつての販路である関東の工務店とのつながりが絶たれてしまい、思うように販売活動ができておりませんでした。
- 現在、震災前に導入した新規の木工機械の再稼動に向け動き出しており、工場の賑わいが増えつつあります。今後は、加工力・生産能力を活かしながら、持続可能な地域資源である国産材（東北産中心）を主力に、住宅建材・家具・インテリア分野への商品開発を進め、まちの活性化・復興に貢献していくとのことです。

いいたていちごランド（農業・飯舘村）



新作のイチゴカクテルを
試飲する菅野氏



収穫されたイチゴ



新作のイチゴカクテル

- 飯舘村にある、「いいたていちごランド」の菅野氏は、平成16年からいちご栽培を開始しましたが、震災後しばらく休業を余儀なくされました。
- その後、平成28年7月に栽培を、29年5月から販売を再開しました。栽培する「雷峰」は、果肉がしっかりしているのが特徴で、食べてみるといちごの甘い香りと甘酸っぱい果汁が口いっぱいに広がっていきます。
- 再開した当初は風評被害の影響などもあり、希望価格で販売することがまなまりませんでした。これをカクテルに加工したところ首都圏でヒットしました。現在は、いちごを用いた新メニューの開発とプロモーションに力を入れており、販路を広げています。

いいたて村の道の駅 まいでい館（小売業・飯舘村）



まいでい館の外観



明るく開放的な店内



豊富な種類を有する
お酒販売コーナー

- 平成29年8月12日、飯舘村にオープンした「いいたて村の道の駅 まいでい館」は、買い物、飲食、花卉栽培施設、防災機能、交流スペースといった多面的な機能を持ち、住民の生活を支える憩いの場、県外訪問者との交流拠点になっています。
- 「まいでい」とは「丁寧に」「心を込めて」「手間暇惜しまず」という意味の方言で、飯舘村では震災前から飯舘村流のスローライフを「まいでいライフ」と呼び、村の基本理念にしていました。今回、「まいでい」な道の駅にしたいとの思いを込め、まいでい館と命名したとのこと。
- 村民の作る加工食品（ナツハゼジャム、カボチャカレー）、手工芸品（つるし雛）、酒（どぶろく、日本酒）、花卉、農産品（赤カブ、ホウレンソウ、小松菜、米）などに加え、近隣市町村でつくられた地場産品も取り扱っており、飯舘村復興のシンボルとして大きな役割を果たしています。

有限会社泉エンジニアリング（金属製品製造業・楯葉町）



泉代表



工場内での作業風景



いわき市四倉の新工場のイメージ

- 「泉エンジニアリング」は、ごみ処理施設に関する鋼構造物の製造・設置・メンテナンスなどを中心に、「ものづくりのエキスパート」、「職人の集団」という自負のもと、お客さまからの希望や要望に寄り添い、図面作成から製造、納品、設置、その後のメンテナンスまで責任をもって対応してきました。
- 震災後は、地震の影響で工場の一部が破損し、いわき市への避難を余儀なくされました。しかし、ごみ処理施設の稼働はその地域で生活していくために必要不可欠なものであるという使命感から、震災からわずか2か月後の平成23年5月に、楯葉町でごみ処理施設のメンテナンス業務部門をいち早く再開させました。
- 「今後も、楯葉町を含む地域の復興に貢献したい」との思いから、メンテナンス以外の部門も楯葉町での再開を決意し、平成27年に全部門の事業を再開するとともに、さらなる事業拡大をめざしてこれまで扱ってこなかった大物鋼構造物の仕事を行うため、平成30年春にいわき市四倉に工場をオープンする予定です。

株式会社いとしんぼ（農産物直売事業、飲食業・南相馬市原町区）



田中京子取締役



店舗外観



直売所（店内）

- 「いとしんぼ」は震災前、地元の生産者などが育てた農産物や加工品を販売する直売所として、地域の皆様に親しまれていました。「いとしんぼ」の名前は、「ひぬまいとしんぼ」という地域に生息する絶滅危惧種のとしんぼに由来しており、「食を育む自然豊かな地域環境に感謝し、次世代にそれを守り繋いでいきたい」という想いが込められています。
- 震災後、取締役の田中氏は「地域の繋がりが突如分断され、皆が諦めに苛まれていることが何よりも悲しく、何とか自分に出来ることがないか」と何日も考え思い悩んだ末、「いとしんぼ」の再開を決意しました。
- 平成27年9月、遂に営業を再開することができました。地元の商品を多数取り揃えてあり、店内にはお食事処もあります。田中さんとスタッフは、愛情いっぱいの食事と笑顔で皆様の来店をお待ちしています。

株式会社 彩葉（いろは）（介護事業・南相馬市小高区）



明るく元気な大井代表



デイサービスいろはの外観



親切・丁寧なスタッフの皆さんによる
メッセージ

- 「株式会社彩葉」の大井代表は、震災前に南相馬市原町区の介護老人保健施設「ヨッシーランド」の入所棟の介護長をしていました。震災の津波で甚大な被害を受けてからは、「必死に利用者を避難させたが、命を救うことが出来なかった。利用者との日々が今も忘れられない」との気持ちを持ち続けています。
- 震災後も避難先などで介護の仕事を続けていましたが、「長年やって来た介護の経験を活かし、故郷の小高とお年寄りの元気の源になりたい」との思いから、株式会社彩葉（いろは）を平成29年5月に立ち上げました。
- そして、「帰還した住民や利用者と共に笑いあえる場にしたい」という熱い思いを胸に、平成29年12月に「お元気デイサービス彩りの丘」、平成30年2月には、いかなる重度の要介護者でも受入可能な「デイサービスいろは」の2つの施設を小高区大富で開所し、入所者とともに歩んでいます。

ゑびす庵（飲食業・飯舘村）



高橋義治氏とちよ子氏
ご夫婦

店舗外観



五目うどん

飯舘村の景色



- 「ゑびす庵」は、桶屋として創業しました。その後、ポリ容器の流通にともない、桶の需要が減ることを見越して、昭和28年に店主の高橋義治氏のご両親がうどん屋を兼業したのがはじまりです。老舗のうどん屋は村民の食事処であり、地域の皆さんから愛される憩いの場でした。
- 震災後、しばらくは福島市に移転して営業を続けていましたが、「生まれた故郷に帰りたい。皆が集まって話ができる場所があれば、村への恩返しではないが、ここまでやってこれた事への感謝を示すことができる」と帰村を決断し、飯舘村で開店する準備を進めてきました。
- そして平成29年4月、飯舘村の避難指示解除に合わせ、遂に飯舘村に戻っての営業を再開しました。「飯舘村へ戻ってきたときの拠り所となれば。足を運んでいただくお客さんのために、この店で美味しいうどんを提供していきたい」と、高橋さん夫妻は意気込んでいます。

大堀相馬焼（食器製造、販売業・浪江町）



伝統的な
大堀相馬焼



新しい作風の各窯の
新作



郡山市の百貨店での
展示会

- 大堀相馬焼は江戸中期の元禄3年(1690年)に開窯し、青磁釉による青ひびといわれひび割が器全体に広がった地模様が特徴（写真左）ですが、青磁釉の外に、灰釉、あめ釉等を使用したものもあります。震災前に25件ほどあった窯元は、原発事故により300年の伝統を誇る土地の粘土が使えなくなりました。
- 避難先の土地では、浪江町で使用していた粘土と同じものが調達できずに苦労したものの、それぞれの土地に合わせた独自の工夫や伝統にとらわれない新しい作風（写真中央5枚）にも挑戦する窯元が、10数窯事業を再開しています。
- 複数の窯元が共同でデパートの展示会に出展するなど、販路拡大にも積極的に取り組んでいます。（写真右）

葛尾村3商店（小売業・葛尾村）



石井商店の開店セレモニー



マルイチ商店の松本美喜子氏



ヤマザキYショップヤマサのオープンには、葛尾村のキャラクター「しみちゃん」も登場

- 平成29年7月、震災前から葛尾村の暮らしを支えてきた、「石井商店」「マルイチ商店」「ヤマザキYショップヤマサ」が営業を再開しました。（「マルイチ商店」のみ、先行して4月から再開）
- ボリュームたっぷりで有名な「石井食堂」は定食メニューに加え、野菜やお肉などの生鮮食品等も販売、生活雑貨店の「マルイチ商店」はプロパンガスの販売から鍋やフライパン等の幅広い商品の取扱、コンビニの「ヤマザキYショップヤマサ」は豊富な品揃えに加え誰でもくつろげる休憩スペースを併設、といったようにそれぞれの特色を活かしています。
- 震災前から葛尾村に不可欠であった三店舗は、営業再開後もその役割を担い、葛尾村復興のシンボルとして、村民とともに新たな一歩を踏み出しました。

有限会社カミノ製作所（自動車部品販売業、納豆製造業・川俣町山木屋地区）



神野社長



女神の納豆



工場のクリーンルーム

- 「カミノ製作所」は自動車部品の製造に加え、平成16年から納豆の製造・販売を開始しました。
- 震災後は、平成23年5月に福島市で事業を再開し、平成27年12月には、昼間の立ち入りしかできなかった当時の山木屋地区で、放射線検査を徹底した上で、納豆の製造をいち早く再開しました。
- 事業再開後に開発した、福島県産の大粒国内大豆にこだわった新商品「女神の納豆」は、通常の納豆に比べてイソフラボンが1.2倍も含まれており、味だけではなく健康に良いのも大きな特徴です。首都圏でも高い評価を受け、東京の有名青果店でも継続して販売されています。

吟せん太鼓いちばん亭（飲食業・川俣町山木屋地区）



菅野卓哉氏(右)と
弟の貴史氏



とんやの郷の全景



川俣シャモのぶっかけ親子丼

- 平成29年7月1日、川俣町山木屋地区に商業施設「とんやの郷」がオープンしました。これは、平成29年3月31日に避難指示が解除された、山木屋地区のシンボルとなる施設です。
- 施設内の飲食店として開店した「吟せん太鼓いちばん亭」の店舗名は、菅野卓哉氏と弟の貴史氏がそれぞれ店長を務める「吟哉」「あじせん」と、地域を拠点に活動する「山木屋太鼓」とともに一から始めるという決意が込められています。
- 「山木屋の復興の一助になりたい」という兄弟の思いから、「川俣シャモのぶっかけ親子丼」「山木屋太鼓バーガー」「山木屋白湯ラーメン」など、川俣や山木屋の地名を前面に出したメニューをずらりと並べ、山木屋から川俣の食の魅力を広く発信しています。

小浜製作所有限公司（金属製品製造業・南相馬市原町区）



川岸社長親子



新事務所および工場



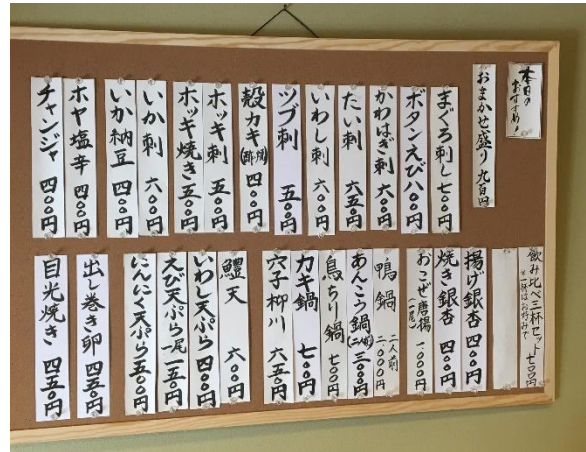
複雑形状に加工した製品

- 小浜製作所は、昭和60年に前社長の川岸利夫氏が創業した会社です。震災前の事業内容は、端子圧着機部品や包装機器部品などを中心としており、その丁寧な製品は信頼されていました。また高度な加工技術に対応できる人材育成には、震災前から最重要課題として取り組んでいます。
- 震災後、避難指示を受けたため、約8か月間の休業を余儀なくされましたが、その後補助金などの支援策を活用し、平成23年10月には現在の場所に仮設工場を設立して、事業を再開しました。
- 平成29年7月に、前社長からご子息である現社長の邦彦氏へ事業継承しています。震災後は「まずはやってみる。やらないうちからできないは言わない！」をモットーに、新たな取扱商品として、高度な加工技術を生かして人工衛星の部品や自動車の試作品にチャレンジしています。

居酒屋こんどこそ（飲食業・浪江町）



中央が店主の本荘司氏、
右側がご子息



豊富に揃う料理の
メニュー



日本酒の種類も充実

- 昭和59年に浪江町で開業した「こんどこそ」は、75坪を有する大型の店舗で、安くて美味しいが自慢の地域の有名店でした。震災後は各地に避難した後、二本松市に落ち着き、平成23年の11月に移転再開をしました。
- 魚の質にこだわっており、週に3回はいわき市まで出向いて仕入れを行っています。その効果もあってか、二本松市のお客さまだけでなく、浪江町の店舗に通っていた常連さんも足を運んでくれているそうです。
- 現在は二本松市で営業していますが、ご子息が浪江町でも再開したいという強い熱意をもっており、浪江町での再開準備も進められ、平成30年の春には浪江町と二本松市の二店舗営業となる予定です。

さくらステーションKINONE（物販、飲食業・富岡町）



櫻井店長(写真右端)とスタッフ



店舗外観



店舗内観

- 海岸に近いJR富岡駅は津波により、駅舎や線路に大きな被害を受けました。「さくらステーションKINONE」は、平成29年10月21日の常磐線竜田～富岡駅間の運転再開に合わせ、JR富岡駅に併設する形で開業しました。
- 物販と飲食店を併設したコンビニ店舗で、店名は富岡町の木である「桜」と「木の根のようにしっかりと地に根を張り今後も復興を進めていく」との想いを込めたもので、店舗の外観には富岡町の桜の名所の写真を掲げています。
- 店舗では食品や日用品のほか、地元のお土産品（加工肉製品、漬物、菓子他）などを扱っています。飲食スペースでは桜をイメージした「さくらうどん」を提供するなど、「皆様の利便性向上で町の復興に寄与する店舗」をめざしています。

さくらモールとみおか3商店（飲食業・富岡町）



さくらモールとみおかの全景

いろは家の
天ぷらうどん



おふくろフーズの
日替わり弁当

浜鶏（はまど〜り）の
浜鶏ラーメン



- 平成28年11月、「さくらモールとみおか」がオープンしました。これは、富岡町において復興のシンボルとして期待される施設であり、4500平方メートルを有する巨大な店内には、ホームセンター、スーパー、ドラッグストアに加え、三つの飲食店が営業しています。
- これらの飲食店は、帰還する町民や町に訪れる人たちに温かい食べ物を提供しようと地元の事業者たちが立ち上がってオープンしたものです。
- そば・うどんに加え、しょうが焼きや唐揚げ、豚カツ、塩サバなどの各種定食など豊富なメニューをそろえている「いろは家」、冷凍の食材は使用せず、地元のお母さんたちが厳選した良いものだけを使うことにこだわり、日替わり弁当が自慢の「おふくろフーズ」、鳥の販売からスタートした「鳥藤」が経営していることから、鶏の旨みにこだわった新メニューの開発にも積極的に取り組む「浜鶏（はまど〜り）」が、来店者のおなかを満たしています。

THE LANTERN HOUSE（宿泊業・南相馬市小高区）



代表の平果林氏



THE LANTERN HOUSE 内観



海外からのツアー客

- 「THE LANTERN HOUSE」代表の平果林氏は、東京都の出身です。震災時、バングラデシュのサイクロン被災地にNGOスタッフとして赴任していましたが、震災後に帰国し、国内外の緊急人道支援を行う中間支援組織にて、東北支援に従事しました。その後、平成27年7月に小高ワークスベースに入社し、「東町エンガワ商店」等の立ち上げに従事した後、平成29年3月に同社を退社しました。
- 原発20キロ圏内にある小高区を拠点に、世界中の人にありのままを見て欲しいとの願いから、双葉屋旅館に隣接する民家を借りて民泊創業を決意し、原発や廃炉、エリアの農業に興味のある訪日外国人を対象に、インバウンド事業（宿泊やツアー）を運営する「THE LANTERN HOUSE」を平成29年9月に開業しました。
- 福島に関心のある外国人に対して英語で情報発信し、既に多くの方々に泊まっていただきながら、20キロ圏内の様々な取り組みや現状を紹介しています。そして、「来訪者の評価も非常に高く、オリンピックイヤーに向けて、更に、この地域における風評被害払拭や理解促進に努めていきたい」との思いを強くしています。

杉田屋（日用品販売、飲食業・川俣町山木屋地区）



社長の紺野ご夫妻

店舗外観



自慢の十割蕎麦

山木屋地区の景色



- 「杉田屋」は、昭和2年に雑貨店として開業しました。その後、家電販売・電気工事・設備工事等（※）にも事業を拡大していますが、創業時からある雑貨店は「杉田屋百貨店」と呼ばれ、川俣町の中心部まで行かなくても必要なものがそろうと地域の皆さんから愛され、事業の中心に位置する存在でした。
- 震災後、社長の紺野氏（写真一枚目左）は「住民のみなさんが戻ったときに、一時的にでも休める場所をつくりたい。山木屋に戻って良かったと思えるようなお店をつくれなにか」と思い悩んだ末、地域の方々が触れ合えるスペースと郷土食を中心に提供する飲食店として再開することを決めました。
- 平成29年9月16日、遂に営業を再開しました。新しいお店の名前は「語り処 やまこや」で、地域のみなさんにとって憩いの場になればという思いが込められています。

（※）現在は、杉田屋電建工業として独立

蕎麦酒房 天山（飲食業・川内村）



井出店主

古民家を改装した店舗



「川内産」にこだわったメニュー

川内村の景色



- 「蕎麦酒房 天山」の店主井出氏は、会津坂下で5年間にわたるそば打ち修行を経て、古民家を活用したお店を平成20年、27歳の時にオープンしました。川内村で生産された玄蕎麦を使用して、天ぷらには地元の野菜、水は地元の井戸水と、徹底して「地元産」にこだわっていました。
- 震災後、川内村を離れざるを得なくなり、避難先では蕎麦とは全く関わりのない建設設備関係の仕事をしていました。そのような中、「川内の玄蕎麦と川内の水で作った美味しい十割蕎麦をできるだけ多くの人に川内村で食べてもらいたい」という気持ちから帰還を決意しました。
- 震災前と同じ「地元産」にこだわった蕎麦を提供する準備を整え、平成26年3月、再開に至りました。当所は、お客さんがなかなか足をはこんでくれず不安でしたが、近所の方からの励ましもあり、頑張って営業を続けてきました。日本伝統の囲炉裏や畳などがある古風な店内、さりげなく流れるジャズのBGMも好評で、リピーターも増え賑わいが戻りはじめました。

天神岬温泉 しおかぜ荘（宿泊業、生活関連サービス業・檜葉町）



運営スタッフ 左から松本支配人
谷平氏 根本氏



しおかぜ荘から望む風景



天神岬スポーツ公園の
イルミネーション

- 天神岬スポーツ公園は、県内外の観光客が訪れる檜葉町有数の観光スポットでした。露天風呂から太平洋が一望できる日帰り温泉施設「しおかぜ荘」などが有名でしたが、震災以降は休業となっていました。
- 平成27年9月の避難指示解除を受け、「しおかぜ荘」がリニューアルされ、同月19日より営業を再開しました。再開された「しおかぜ荘」は、新たな源泉を用いることで成分濃度が以前の約3倍になりました。また、震災以降、相双地域の観光課題であった“夜の街並み”も楽しんでもらうため、平成27年より毎年イルミネーションを開催しています。
- 天神岬の沖合には、復興事業の一環として世界最大規模となる洋上風力発電所が設けられています。3基の風車からは14メガワット、およそ約1万2000世帯の1年分に相当する電力が発電されるそうです。天気が良い日は、「しおかぜ荘」からも、太平洋上に浮かぶ風車を見ることができます。

富岡ホテル株式会社（宿泊業・富岡町）



渡辺 史 代表取締役



ホテル外観



シングルルーム

- 平成28年10月、富岡駅前が開業した「富岡ホテル」は、震災後に代表取締役の渡辺氏をはじめとする富岡町の有志8名が集まり、「震災を経験した富岡町が一步步変わっていく姿を多くの方々に見に来ていただき、町の希望を次世代に繋げていく」という想いを込めた町民の手によるホテルです。
- 「富岡ホテル」は、「福島県産にこだわった安心安全な食材と、お客様の健康に気遣った心まで満たす温かいお食事で『ほっ』」「客室はバス・トイレが分かれており、ゆったりとした快適空間で『ほっ』」「お客様を「想い、人の手で為す」おもてなしサービスと、笑顔あふれる人のやさしさに『ほっ』と、3つの「ほっ」をコンセプトにしています。
- ゆったりとした寛げるロビーと、お洒落で清潔感のある客室は、安心して気軽に宿泊できると、女性の宿泊客からも評判です。復興の進展とともに、多くの宿泊客の利用が見込まれており、益々の活況が期待されています。

勿来復興拠点3商店（飲食業、サービス業・双葉町）



レストランを開店する
小川 貴永氏

喫茶店を開店する
岡田 秀樹氏



コインランドリーを
開店する福田 一治氏



建設予定地



拠点全体風景

- 双葉町の町外拠点として、いわき市勿来酒井地区に住宅居住地区などの建設が進められています。その中に建設予定の商業施設に、コミュニティづくりを意識した3店舗が出店予定です。
- 小川養蜂の小川貴永氏は、弟さん家族と4人で、レストラン「輪」を開店するための準備を進めています。ローストチキンや山菜、鶏おこわや日本酒など、地元の食材にこだわったメニューを考案中です。岡田秀樹氏は震災前、世界にも知られた双葉バラ園でお父様と一緒にレストランを運営していました。今回、復興拠点で喫茶店を開店し、昔懐かしいカレーをお客さまに堪能してもらうための準備を進めています。福田一治氏は震災後、双葉ダルマ市や仮設住宅での盆踊りを企画し、被災者に勇気と希望を与えてきました。今回、入居する高齢者の日常生活の手助けや、コミュニティの創出をするために、有人のコインランドリーを運営します。
- 双葉町で育ち、双葉町に熱い思いをよせる3名は、平成30年6月の開店をめざして奮闘する日々を送っています。

新妻荘食事処いふ（飲食業、宿泊業・浪江町）



店主の新妻泰氏(右)と長男の泰朋氏



自慢の刺身盛り



店内の風景

- 「いふ」は昭和56年、喫茶店と下宿を併設させた店舗を浪江町で開業し、平成15年に居酒屋と下宿に事業を変更させ、新たな「いふ」をスタートさせました。店名は、将来に広がる様々な可能性を思い描き、英語の「i f」に由来して名付けています。
- 震災後は、7か所の避難所を転々とする避難生活が続きました。知り合いの同業者の中には、避難先で開業する方もいましたが、店主の新妻さんは浪江町にいち早く戻って再開する決意をもっていました。
- そして平成29年5月、「いふ」は他の飲食店に先駆けて浪江町で念願の帰還再開を果たしました。常連さんからは、「浪江町に戻って、再びお酒が飲めるとは思っていなかった、信じられない！」という喜びの声をいただいたそうです。

合同会社ニコニコ菅野農園（農産物加工販売事業・飯舘村）



ナツハゼを収穫する
菅野氏



ナツハゼの実



ナツハゼを使ったジャム
「里山の黒真珠」



飯舘村の景色

- 代表者の菅野クニ氏は、「飯舘村にしか売ってない特産品を目指そう」とナツハゼ（※）の栽培を決意のうえ、平成22年11月に100本余りの苗木を自宅周辺の畑に移植して栽培を開始し、平成23年4月に「菅野農園」をオープンすべく準備を進めていましたが、原発事故の影響で計画は中止になりました。
- しかし、ナツハゼへの強い想いは片時も頭から離れず、平成28年8月から納屋を工房に改築して新たなスタートをしました。ナツハゼを使ったジャム「里山の黒真珠」は、飯舘村にある道の駅「までい館」でも販売され、大変好評を得ています。
- 菅野さんはナツハゼの栽培のみでなく、自宅周辺の自然を活かし、里山体験学校の開校もめざしているとのこと。

（※）ナツハゼは、ブルーベリーと同じツツジ科スノキ属の植物。目の疲労回復や血液浄化作用などに効果があるとされているアントシアニンが、他のベリー類の約6倍含んでいると福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センターにより証明されています。

株式会社ネモト（小売業・檜葉町）



根本社長(右)とご子息



ブイチェーン檜葉店の店舗



人気商品の刺身

- 「ネモト」は、震災前に檜葉町内でスーパーを2店舗経営し、売上は3年連続増収増益を達成するなど事業は順調に推移していました。
- 震災後、広野町内のプレハブでの仮設店舗や、原発事故復旧拠点となっていたJヴィレッジ内で事業を再開され、事故復旧の作業員の方々に大変喜ばれました。その後、檜葉の人のためにという思いから、檜葉町役場前の「ここなら商店街」でブイチェーン檜葉店を平成26年6月に開店しました。
- 現在は「笑ふるタウンならは」への出店に向け準備を進めています。人材確保や集客など悩みはつきませんが、食品専門スーパーの地域一番店を目指し「安心・安全・健康」な食品の提供を通じて檜葉町の復興に誇りをもって関わっていききたいと、根本社長は意気込んでいます。

馬場医院（医療業・広野町）



小鹿山 博之 院長



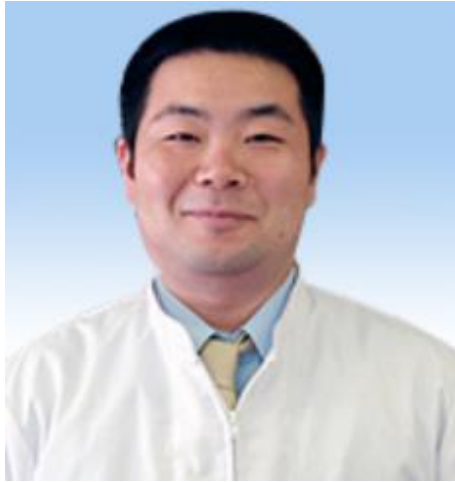
医院外観



医院内観

- 「馬場医院」は、昭和20年頃に設立された診療所で、広野町だけでなく、双葉郡内の各地から訪れる患者を診療しています。内科や小児科、外科、整形外科、脳神経外科など、“町のかかりつけ医”として幅広い医療サービスを提供しています。
- 震災直後は、小鹿山院長ご自身も避難所で生活を送りながら、被災者への診療活動を行ったそうですが、町の復興が進むのに伴い、広野町に戻られました。その後、帰還住民などの患者増加に伴う医療ニーズの高まりなどもあり、平成28年5月に広野駅の西口から東口へ移転しました。
- 「すべては患者さんのために」という精神の下、新設された診療所は、診療施設を拡充し、高機能の医療設備を整備しています。今後は幅広く質の高い医療サービスを提供し、地域医療の中心的な役割を担っていききたいとのこと。

株式会社ハム工房都路（食品製造業・田村市）



高橋 典一
取締役・工場長



店舗外観



ウインナー＆ソーセージセット

- 「ハム工房都路」は、旧都路村と株式会社フリーデンの共同出資で平成9年10月に設立されました。平成17年からは、7年連続でドイツ農業協会食品競技会の金賞を受賞しており、本場ドイツに認められた品質の製品を提供していました。
- 震災後は製造中止となり、店舗閉鎖に追い込まれるほどでしたが、地域をはじめ全国の顧客から励ましの言葉をいただき、平成25年4月に工場・直売所を移転のうえ再開しました。
- 「ハム工房都路」では、内質がきめ細かく柔らかで、脂肪に甘みのある「やまと豚」を100%使用しており、再開後も平成26年、28年、29年と再びドイツ農業協会食品競技会の金賞を受賞しております。インターネットでも購入できますので、ご賞味ください。

株式会社広野薬局（医療保健業・広野町）



代表取締役の
稲川ひろみ氏



薬局のスタッフの皆さん



広野駅東口にある
広野薬局の外観

- 「広野薬局」は広野町で昭和31年に創業し、近くで診療所を営む馬場医院の門前薬局として、地域の医療に携わっています。稲川代表取締役は、震災後に避難所を転々とされ、一時は神戸市の病院に勤めていました。
- 避難していた頃から、双葉郡の復興や住民の帰還に貢献したいとの思いを抱き、震災の翌年に店舗の除染を行い、平成25年1月に帰還再開を果たしました。その後、広野町が進める駅東口の再開発に合わせて、平成29年5月に駅の西口から東口に店舗を移転しています。
- 広野薬局は、薬局に何うことが困難な方々に、薬の配達サービスを行うなど、幅広い患者のニーズに応えるべく努めています。稲川代表取締役は、「地域の復興に薬局は不可欠、今後もサービスの質を高めて、復興や住民の帰還に貢献したい」との強い信念を持ち、地域薬局として、地域住民から選ばれる薬局をめざしています。

双葉設備工業株式会社（電気工事業・大熊町）



志賀会長



再開した広野町の本社



広野町に建設したホテル

- 「双葉設備工業」は、震災前は大熊町で空調換気工事・給排水設備を取り扱う総合設備業として、大手施工会社からの受注や原子力発電所の空調メンテナンスを行うとともに、フタバ・ライフサポート（ホテル業）も営み、事業は順調に運んでいました。
- 震災後、福島市内に避難していましたが、客先から復旧・復興の要請があり、双葉郡内の警戒区域で現場設備の片づけなどに4か月程従事しました。その後、震災前から残った3名を含む12名の従業員とともに、広野町で事業を再開しました。
- ピンチをチャンスに変えるとの発想のもと、除染や廃棄物処理を専門に扱う双葉環境設備株式会社を立ち上げるとともに、新たにホテルを広野町に建設して開業しています。いずれは本社を大熊町に戻し、町の復興・住民の早期帰還・若者の雇用確保など、新しいまちづくり・地元産業の再開への熱い想いを抱いています。

有限会社ふるさとのおふくろフーズ（農産物加工販売事業・葛尾村）



松本富子氏

凍みもち



裕子氏(三女)と
智恵子氏(長女)

葛尾村の景色



- 平成2年に葛尾村で、松本富子氏ほか農家の女性5名が集まり、食品の製造から販売までを手掛ける「おふくろフーズ」を結成しました。葛尾村の気候に合わせて作る主力商品の「凍みもち（しみもち）」は、結成後まもなく、駅のキヨスクで販売する姿などが話題となり、各地で売れ始めました。平成10年に法人化し、平成17年度には地域づくりに顕著な功績があった優良事例として「地域づくり表彰」を受賞しました。
- 震災により休業を余儀なくされましたが、全国の顧客からは「再開を待ちわびる」というメッセージが添えられた年賀状が届きました。「凍みもちが懐かしく美味しと待ち望んでいる方に早く届けたい」「葛尾村の伝統を絶やすことなく伝えていきたい」という思いから、平成25年5月から「凍みもち」の原料の一つである「ごんぼっぱ」の栽培を再開し、平成29年に念願の販売再開に至りました。
- 現在は、松本さんの長女の智恵子氏と三女の裕子氏に事業を引継ぎ、凍みもちを販売しています。また、孫や村内の人達もこの事業を手伝ってくれており、若い世代に村の伝統食である「凍みもち」が継承されています。

株式会社ヘルシージャパン（サービス業・楢葉町）



渡辺社長



楢葉町で再開した自社工場



国道6号線沿いのコインランドリー

- 「ヘルシージャパン」は、震災前は業務用クリーニング業として日立から相馬エリアのクリーニング店・寝具店などを対象にクリーニング（布団丸洗い）とリネンサプライ、貸し布団業を行っていました。主要事業の布団丸洗いは、貸倉庫を借りないと対応できないほどの需要があったそうです。
- 震災後、避難先のいわき市に仮設工場を確保し、平成23年6月には一部事業を再開しました。「帰還を迷っている方々や住民に安心感を与えたい」という渡辺社長の一念から、翌24年10月には楢葉町の自社工場を、また、平成27年9月の避難指示解除にあわせて国道6号線沿いのコインランドリーを再開しました。
- 目下、人材不足等の問題はあっても、「自分の業種で復興に役立てるという観点からコインランドリーや、市場拡大が見込まれる貸布団業を中心に、宿泊施設や事業者の寮などに営業していきたい」と渡辺社長は意気込んでいます。

まち・なみ・まるしえ（仮設商業共同店舗・浪江町）



浪江焼麺太国
アンテナショップの
なみえ焼きそば

海鮮和食処くろさかの
海鮮丼



キッチングランマの
日替わり定食

カフェコスモスの
カレーライス



- 平成28年10月27日、浪江町役場の敷地内に、仮設商業共同店舗「まち・なみ・まるしえ」がオープンしました。これは、震災からの長い避難生活の中、「帰町した時に、買い物ができる商業施設がほしい」と望む住民の声を受けて実現したもので、これらの声に応えようと、これまで別の業種の事業を営んでいた地元事業者たちが、町の人々に必要なお店を開いたものです。
- 飲食店として、B-1グランプリでお馴染みのなみえ焼きそばが食べられる「浪江焼麺太国アンテナショップ」、震災以前は寝具の製造販売を行うお店を営んでいた「海鮮和食処 くろさか」、家庭的な味が評判の日替り定食を提供する「キッチングランマ」、町民がおしゃべりできる憩いの場をめざす「カフェコスモス」が入居しています。
- 町では、「町民が集い、食事や買い物ができる、復興のシンボル」として親しまれており、毎月第2土曜日と日曜日にさまざまなイベントを実施する「まるしえの日」を開催し、新しいファンの獲得もめざしています。

有限会社マルイ装美（サービス業・双葉町）



石田貴博代表取締役



移転先の日立市の事務所

- 「マルイ装美」は現在の代表取締役の父・石田利夫氏が平成元年に双葉町で起業され、主に双葉郡のスーパー等の店舗清掃をメインに展開し、平成14年に法人化しました。一つ一つの仕事を真摯に取り組むことで、地域や顧客からの信用・信頼を積み上げてきました。
- 震災後は一時休業していましたが、避難先の茨城県日立市で平成28年8月からビル清掃業を再開し、ビル清掃・ハウスクリーニングを中心に受注しています。石田さんは事業以外にも、日立市で被災者同士の交流を目的とする任意団体を立ち上げたり、復興支援員として浪江町から避難した方々約1000人を訪問するなど、さまざまな支援活動を行ってきました。
- 今後は、ビル清掃業が軌道に乗った段階で、被災された住民の方々の帰還促進に繋がる被災地での空き家維持・管理サービスの新規事業を立ち上げることを検討しています。

mammacio (マンマチャオ) 南相馬小高店 (サービス業・南相馬市小高区)



代表社員の岡崎崇氏(右)と
ご子息の晃也氏(中央)



最新の洗濯機と乾燥機が設置さ
れた店内



Mammacioの全景

- 平成29年11月24日、南相馬市小高駅前通りに大型コインランドリーがオープンしました。店舗名は「mammacio (マンマチャオ) 南相馬小高店」、イタリア語で「お母さん、こんにちは!」という意味だそうです。
- このお店は、地元で創業110年の老舗金物店「合資会社塩屋金物店」が運営しています。開店のきっかけは、平成28年7月に避難指示が解除になり、住民が戻ってこられるようになった小高区で、コインランドリーが必要だという地域の声を代表社員の岡崎崇さんが耳にしたことからでした。
- 「小高で生まれ育った者として、地域に貢献したい」と出店を決意されました。ご子息の晃也さんの協力も得て、無事に開店に至りました。「mammacio (マンマチャオ)」は、地域の人々から愛されるコインランドリー店をめざしています。

都路運送有限会社（運送業・田村市都路町）



吉田社長とご家族



都路運送所有の大型トラック



船引町に新設した営業所

- 「都路運送」は今から約40年前に、吉田義四郎さん（写真一枚目右）が始めた会社です。震災前は、タマゴ（鶏卵）の運送が事業の中心を占めていました。タマゴは割れると商品としての価値を失うので、運送には細心の注意を要しますが、都路運送の丁寧な運転が信頼を生み、事業の中心にまで至ったことです。
- 震災後、風評被害の影響でタマゴの出荷が一時停止となり、運送が出来なくなった為、吉田社長は多方面への営業を行うなど運送事業の継続にご苦労されましたが、出荷再開後は、震災以前と同様に多くのタマゴを輸送しています。
- 現在は吉田社長のご家族と従業員が一丸となり、会社の経営を支えています。新しく船引町に営業所が完成し、雇用と事業の拡大をめざしています。

都路町商工会みやこじスイーツゆい（菓子製造、小売業・田村市都路町）



店を支える女性スタッフたち



店舗外観



代表作のゆいプリン<リッチ>

- 都路地区で復興のシンボルとして、地元食材でつくったスイーツを製造・販売する「みやこじスイーツゆい」。地域復興に向け『都路町の特産品をつくろう！』というスローガンのもとに始まった「都路町商工会6次産業化プロジェクト事業」です。
- 平成28年3月に設立され、地元から採用した従業員は未経験者でスイーツづくりの技術はなく、スイーツ開発には福島県にゆかりのある東京都内有名ホテルのパティシエから指導を受け、約1年前からレシピ開発や、新規従業員への技術指導などを行ってきました。
- 都路が誇るブランド卵「都路たまご」を贅沢に使った『ゆいプリン<リッチ>』は、「都路産の卵を使ったスイーツを新たな名物に育て、活力あるふるさとを取り戻したい！」という思いで誕生したものです。現在は地元の住民だけでなく、郡山など遠方からの購入客もいるほか、通信販売でも購入できます。

みやこ旅館（宿泊業、飲食業・田村市都路町）



吉田幸弘氏（右）と奥様久子氏



みやこ旅館と食彩みやこの
外観



自慢の囲炉裏

- 「みやこ旅館」は、現在の吉田幸弘氏が3代目経営者を務める老舗旅館です。震災同年中に都路町に戻って営業を再開しました。
- 「初めのお客さんは、夜間の見回りに来た自衛隊や警察の人たち。人恋しいものだから『ちょっと座っていい』と来てもらって知り合いになりました。一時帰宅が始まると、古い友人が前泊のために宿泊してくれ、少し元気が出ました」と吉田さんは語ります。
- お店の自慢は大きな囲炉裏です。この囲炉裏端で、家族連れの子もたちが焼き物をして喜んでくれたり、お客さん同士がいつのまにか打ち解けて談笑する姿を求めて、旅館と飲食店を続けているそうです。

若松味噌醤油店（食品製造業・南相馬市鹿島区）



糀甘酒と若松専務

店舗外観



自慢の蔵と煙突

相馬田舎みそ



- 「若松味噌醤油店」は、江戸時代末期に創業し、レンガ造りの煙突と完成まで3年の月日を費やしたといわれる蔵は、震災の大きな揺れにも耐えました。震災後、鹿島区も避難区域と同様に、一時的な人口減少や風評被害の影響を受けましたが、いまなお南相馬の地で150年ののれんを守り続けています。
- 天然醸造法で一年以上じっくり熟成させた看板商品である相馬田舎味噌は、調味料を一切使用しない、昔ながらの無添加味噌で、自然な糀の甘みを感じられる味噌に仕上がっています。
- 若松真哉専務は、伝統を守りながらも新商品の開発に力を入れており、平成30年2月にはコメ本来の甘さが特徴の新商品「味噌蔵の糀（こうじ）甘酒」を発売し、新たなファン層の獲得もめざしています。

【掲載事業者の所在地と電話番号】（掲載していない事業者あり）

・1ページ 株式会社朝田木材産業

所在地：浪江町大字樋渡字南町36

電話番号：0240-34-5165

・5ページ 株式会社いととんぼ

所在地：南相馬市原町区北原字本屋敷181-1

電話番号：0244-23-7328

・2ページ いいたていちごランド

所在地：飯舘村二枚橋字町494

・7ページ ゑびす庵

所在地：飯舘村飯樋字町101

電話番号：0244-43-2018

・3ページ いいたて村の道の駅 まいでい館

所在地：飯舘村深谷字深谷前12-1

電話番号：0244-42-1080

・9ページ 石井商店

所在地：葛尾村大字落合字西ノ内10-2

電話番号：0247-73-8890

・4ページ 有限会社泉エンジニアリング

所在地：楢葉町大字井出字苅集4-4

電話番号：0240-25-2293

・9ページ マルイチ商店

所在地：葛尾村大字落合字菅ノ又37

電話番号：0240-29-2009

・9ページ ヤマザキYショップヤマサ

所在地：葛尾村大字落合字西ノ内18

電話番号：0240-29-2021

・13ページ 居酒屋こんどこそ

所在地：二本松市本町2-200

電話番号：0243-22-4315

・10ページ 有限会社カミノ製作所

所在地：川俣町山木屋字問屋32

電話番号：024-563-2121

・14ページ さくらステーションKINONE

所在地：富岡町大字仏浜字釜田17-17

電話番号：0240-22-3035

・11ページ 吟せん太鼓いちばん亭

所在地：川俣町山木屋字日向40-1 とんやの郷

電話番号：024-529-6339

・15ページ さくらモールとみおか三商店

所在地：富岡町大字小浜字中央416

・12ページ 小浜製作所有限会社

所在地：南相馬市原町区信田沢字下信田328-10

・17ページ 杉田屋

所在地：川俣町山木屋字問屋25

電話番号：024-563-2342

・18ページ 蕎麦酒房天山

所在地：川内村大字上川内字町分211

電話番号：0240-38-3426

・19ページ 天神岬温泉 しおかぜ荘

所在地：檜葉町大字北田字上ノ原27-29

電話番号：0240-25-3113

・20ページ 富岡ホテル株式会社

所在地：富岡町大字仏浜字釜田122-6

電話番号：0240-22-1180

・22ページ 新妻荘食事処いふ

所在地：浪江町大字川添字佐野39-3

電話番号：0240-34-1650

・23ページ 合同会社ニコニコ菅野農園

所在地：飯舘村草野字七郎内95

電話番号：0244-42-1269

・24ページ 株式会社ネモト

所在地：檜葉町大字北田字鐘突堂中満256番地

電話番号：0246-38-9515

・25ページ 馬場医院

所在地：広野町下浅見川広長100-6

電話番号：0240-27-2231

・26ページ 株式会社ハム工房都路

所在地：田村市船引町船引字源次郎218

電話番号：0247-61-5686

・27ページ 株式会社広野薬局

所在地：広野町大字下浅見川字広長100-5

電話番号：0240-27-2265

・28ページ 双葉設備工業株式会社

所在地：広野町大字下北迫字岩沢31-72

電話番号：0240-27-1253

・29ページ 有限会社ふるさとのおふくろフーズ

所在地：葛尾村大字野川字湯ノ平41

電話番号：0240-29-2154

・30ページ 株式会社ヘルシージャパン

所在地：檜葉町大字山田岡字南作17

電話番号：0240-25-5095

・32ページ 有限会社マルイ装美

所在地：茨城県日立市十王町伊師2208-3

電話番号：0294-87-6413

・33ページ mammacio南相馬小高店

所在地：南相馬市小高区仲町1-51

・34ページ 都路運送有限会社

所在地：田村市都路町古道字横山前12

電話番号：0247-67-3501

・35ページ 都路町商工会みやこじスイーツゆい

所在地：田村市都路町岩井沢字道ノ内65-1

電話番号：0247-73-8380

・36ページ みやこ旅館

所在地：田村市都路町古道字寺ノ前18-2

電話番号：0247-75-2018

・37ページ 若松味噌醤油店

所在地：南相馬市鹿島区鹿島字町181

電話番号：0244-46-2016